

平成 22 年 4 月 26 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19360282

研究課題名（和文） アジアの都市再生に関わる歴史のおよび方法論的研究

研究課題名（英文） Historical and methodological research related to urban regeneration of Asia

研究代表者

高村 雅彦（TAKAMURA MASAHIKO）

法政大学・デザイン工学部・教授

研究者番号：80343614

研究代表者の専門分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠

キーワード：(1) 国際研究者交流 (2) アジア (3) 都市再生 (4) 都市類型 (5) 歴史的観点 (6) 上海 (7) 台北 (8) 北京

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、アジアの歴史的都市の再生を総合的に明らかにする全体構想の第一歩として、東アジア・東南アジアにおける主要都市を対象とし、近年の園犀星の展開過程を空間論的及び社会論的に認識・把握しながら、都市史研究をベースにした都市再生のための方法論を一段と拡大・精緻化し、現代都市の創造に向けての歴史的な諸課題や論点を抽出することにある。

2. 研究の進捗状況

第一年度にあたる平成 19 年度は、年度テーマを共通テーマの「1. 歴史的都市の形成過程とその諸類型」とし、同時の研究分担者とともに、これまでの研究業績をさらに精緻かつ深化させることが重要な計画となった。研究組織の研究単位 A では上海・北京・台北（高村雅彦担当）、B ではルアンパバン（大田省一担当）が現地調査や文献史料の考察を行って、類型化に結びつける作業を実施した。その研究の一環として、平成 19 年 7 月にはダサック・オウセンタパンヤ（ラオス国立大学建築学部教授）、スーカン・チッタパンヤ（同主任）、ソムチット・シッチバン（同副主任）を招聘し、国際シンポジウム「アジアの都市再生Ⅳ—ラオスビエンチャンとルアンパバン—」を開催し、アジアに共通する都市再生のための視点を見出した。とくに、歴史的遺産の何を活かして都市再生に結びつけるかといった点では、台北・上海・北京

が今後の主な対象都市となった。

平成 19 年度の共通テーマ「1. 歴史的都市の形成過程とその諸類型」を踏まえて、平成 20 年度は共通テーマ「2. 都市再生の展開過程に見る空間論的及び社会論的特性」について研究を行った。具体的には、都市再生の展開過程に関する都市類型との関連が共通のテーマとなり、A 上海・マカオ・台北、B ルアンパバン・シンガポール、C ソウル・東京・島原を主な対象とし、主な資料調査先としてはマカオ・アーカイブセンター、上海図書館、シンガポール国立公文書館、フランス国立公文書館、台湾公文書館分館などから多くの資料を得た。とくに、上海では万博開催で様々な都市開発が進むなか、一方で歴史的な建築遺産をいかに保存しながら新たな開発計画を行うかが大きなテーマとなっており、水辺の整備とともに魅力的な変容をとげつつある。また、ルアンパバンでは仏領期の建築を巧みに利用しながら、観光化へ結びつけつつ、きちんとした生活を維持するための方策などが作られていることを明らかにした。

平成 20 年度の共通テーマ「2. 都市再生の展開過程に見る空間論的及び社会論的特性」の成果を踏まえて、平成 21 年度も同じテーマによって対処を広げつつ研究を行った。具体的には、都市再生の展開過程に関する都市類型との関連が共通のテーマとなり、A 上海・マカオ・台北、B ルアンパバン・シンガポール、C ソウル・東京・島原を主な

対象とし、主な資料調査先としてはマカオ・アーカイブセンター、上海図書館、シンガポール国立公文書館、フランス国立公文書館、台湾公文書館分館などから多くの資料を得た。とくに、上海においては万博の開催でいかに都市整備が行われているのか、また島原は歴史的な考察として報告書を作成中である。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

計画では、多数の都市を対象とすることから、個々にどれほどの成果を上げることができか難しい面を抱えていた。しかしながら、広く浅くではなく、個々に深度のある成果があげられていて、それゆえに多くの報告書を最終年に刊行することが可能となった。

4. 今後の研究の推進方策

平成 22 年度は、最終年にあたり、これまでの成果を報告書にまとめることが最も重要な作業となる。報告書は「島原 歴史都市の復権」、「銀座 芝居町木挽町とだいこん河岸の復元作業」、「アジア都市の再生Ⅰ—上海、シンガポール」、「アジア都市の再生Ⅱ マカオ」の四部を刊行予定である。これにより、日本を含めたアジアの都市再生の差異のみならず、今後の個々の国での取り組み方のH各研究を通して、いかなる都市再生が一般化しうる解答として見出せるかが目標となるであろう。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計12件)

- 1) 高村雅彦, 『都市寧波』の空間構造に関する史的研究—官紳区と商工区の変容過程—, 東アジア海域交流史—現地調査研究—地域・環境・心性—, 第3号, 2009年, pp. 12-28, 査読有
- 2) Masahiko Takamura, "Urban Beauty under Occidentalism of Tokyo - Lost waterscape of Postwar in Architecture Holding Stalls and Floating Houses —", International Conference on East Asian Architectural Culture, I, 2009, pp. 483-489, 査読有
- 3) 高村雅彦, 破壊と再生のアジア, 水景の都市, 季刊大林別冊, 2009年, pp. 27-31, 査読無
- 4) 高村雅彦, 中国都市史における『空間の

- 経験』, 都市と建築リーズ「個と全体」, 日本建築学会, 2007年, pp. 19-24, 査読無
- 5) 高村雅彦, 台湾における日本統治時代の公設市場建築に関する研究—近代アジアを巡る都市建築のアイデア—, 民俗建築, 日本民俗建築学会, 131号, 2007年, pp. 35-42, 査読無

〔学会発表〕(計8件)

- 1) 高村雅彦, 欲望と享楽の都市 マカオ: 海上都市の覇権と復権, 2009年度日本建築学会大会(東北)パネルディスカッション, 2009年8月26日, 仙台・東北学院大学
- 2) 高村雅彦, 破壊と再生のアジア 爆発的なアーバニズムと都市の新たなタイポロジー, 国際シンポジウム 未来派の都市から真の都市へ 未来都市の100年ビジョン—イタリア未来派から、日本、そしてアジアへ, 2009年9月26日東京・法政大学

〔図書〕(計2件)

- 1) 日本語版監修高村雅彦・楼慶西著, 『中国歴史建築案内』T O T O出版, 2008年, 総ページ数pp. 403
- 2) 高村雅彦著・郭錫泰訳、従建築解説中国中世紀的都市社会、遼寧省博物館編『『清明上河図』研究文献匯編、万卷出版公司(瀋陽), 2007年, pp711-721